

様式 Z-7

平成25年度科学研究費助成事業 実績報告書 (研究実績報告書)

1. 機関番号

3	2	6	0	4
---	---	---	---	---

 2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(B) 4. 研究期間 平成24年度～平成26年度
5. 課題番号

2	4	3	1	0	1	2	2
---	---	---	---	---	---	---	---
6. 研究課題名 安全な自転車利用促進を目指す循環型社会の新しい交通システム構築のための基盤研究
7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
3 0 1 5 7 1 1 9	マイエ カズオ	博物館	教授
	真家 和生		

8. 研究分担者

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
1 0 1 6 8 6 1 9	ウエタケ テルオ	東京農工大学・(連合) 農学研究科 (研究院)	教授(Professor)
	植竹 照雄		
3 0 1 5 8 8 1 0	オカダ アキラ	大阪市立大学大学院・生活科学研究科	教授(Professor)
	岡田 明		
1 0 3 1 1 7 8 9	ヤマオカ トシキ	和歌山大学・システム工学部	教授(Professor)
	山岡 俊樹		
0 0 1 0 6 2 6 2	キンダ コウヤ	公益財団法人労働科学研究所・研究部	主幹研究員
	岸田 孝弥		
4 0 3 2 8 9 3 5	ハシモト シュウサ	武蔵野大学・人間科学部	教授(Professor)
	橋本 修左		

9. 研究実績の概要

本年度(平成25年度)は、本研究の2年度目にあたる年であり、各研究班(4班)がそれぞれの課題を拡大しつつ継続的に研究を遂行してきたことは勿論であるが、特に本年度は、オランダのTNO財団(オランダにおける交通全般を対象とする高等研究所)とのチャンネルができたことをきっかけに、自転車王国オランダでの調査研究を行い、かつTNO財団と我々研究グループとの共同研究発表会を持つことができたということが特記すべき事柄である。すなわち、平成25年11月に、研究協力者2名を加えて、オランダに赴き、デルフト市においてTNO財団と共同研究発表会を持ち、自転車事故の年次推移やその基本的構造(自転車事故の交通事故全体に対する割合の増加傾向と、高齢者の事故率の増加傾向)が日本と同様であることなどを確認することができた。と同時に、自転車に対する基本的な考え方やインフラに、オランダと日本では大きな格差があることも認識された。オス市およびテンボス市では自転車優先道路(自転車用ラウンドアバウトを含む)などを実際に走行し、高校生の通学時の自転車走行についての現地調査を行い、小学校での自転車安全教育の現場を視察することができた。また、自転車専用の”PleasantPass”(恐怖心を取り除くためにクイズなどを取り入れた自転車用アンダーパス)の設計者から、直接、その設計思想等についての解説を受けた。そして、帰国後、これらの知見を盛り込んで、人類労働学会東日本地方会に併せて一般公開シンポジウムを開催した。また、平成26年になり、そのPleasantPass設計者(ピーター・ヤン・シュターレン氏)の来日に合わせて、ヤン・シュターレン氏も含め、他の自転車研究グループ(自転車活用推進研究会など)との情報交換を行った。これらを取組として、最終年次の研究課題およびまとめに向けての問題点の整理を行った。

10. キーワード

- (1) 自転車 (2) 安全 (3) 交通システム (4) 循環型社会
 (5) 自転車事故 (6) 安全教育 (7) 高齢者 (8)